

さいたま市長年頭記者会見

平成25年1月7日（月曜日）

午前11時00分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長年頭記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の埼玉新聞さん、進行よろしく願いいたします。
- 埼玉新聞 それでは、まず市長のほうからよろしくお願いします。

### 市長年頭あいさつ

- 市 長 皆さん、明けましておめでとうございます。  
旧年中は、市政各般にわたりましてご理解、ご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。  
巳の年、さまざまなことが起こって、実ってくる、方向性が決まってくる年とも言われております。さいたま市にとっても、種をまいてきたことが、また取り組んできたことが花を咲かせ始める、そんな年になると思っております。  
昨年を振り返ってみますと、2月に北区で3人の方が救いの手を差し伸べられることもなく自宅で亡くなり、数か月後に遺体で発見されるという大変痛ましい事件が発生いたしました。  
さいたま市では、このような事件を繰り返さないために、孤立死につながるさまざまな要因に対応する相談窓口を網羅したリーフレットを作成し、全世帯へ配布を行いました。  
また、その後本市独自の通報ガイドラインというものを策定し、ライフライン等の事業者が訪問先の生活の異変に気づいて、安否の確認を必要とする方または支援を必要とする方を発見した場合に通報にご協力をいただくことになりました。  
この孤立死を未然に防ぐ「要支援世帯の早期把握のための対策事業の協力に係る協定」というものをこれまで15の事業者と締結をしたところがあります。また、このことは全国でも先進的な取り組みとして注目をされ

るようになりまして、マイナスをプラスに変えることができました。

昨年1年を振り返っての漢字1文字は「絆」という言葉をあげさせていただきますが、改めて人と地域との絆の重要性を認識した1年でもございました。

また、一昨年設立をしました、自治体としては全国ではじめてとなります「さいたまスポーツコミッション」におきましては、現在さいたまスーパーアリーナで開催中の春高バレーの愛称で親しまれております「全日本バレーボール高等学校選手権大会」を誘致いたしました。

また、昨年は「bjリーグのオールスター戦」に始まりまして、「UFC JAPAN」、また「2012 FIFA U-20女子ワールドカップサッカー大会」等、女子サッカーの全国的、また国際的な大会、また「大相撲さいたま場所」、「バドミントン日本リーグ2012さいたま大会」など、数多くのビッグイベントを誘致、開催することができました。

引き続き、スポーツの分野で新たな観光、交流人口の拡大を図るため、本市のスポーツに関するシティセールスや関連マーケティング活動を専門的に展開し、地域経済の活性化につなげていきたいと考えております。

今年さいたま市は、政令指定都市への移行10周年を迎えます。市民意識調査では、本市に「これからも住み続けたい」、また「住みやすい」という答えが全体の8割を超えております。しかし、一方で都市イメージがはっきりしないというご指摘もございます。

次の時代に向けてさまざまな課題に対応して、市民のしあわせを実現する「住みたい都市」、また市民や企業から「選ばれる都市」になっていくために、さいたま市のブランド化、また都市イメージの構築を図っていくことが必要であります。

このキーワードとして「教育」「健康・スポーツ」「環境」の3つをあげたいと思っております。これらは、他の都市と比較をして、さいたま市が優位性、また特色を持っていると考えておりまして、施策のさらなる充実によって市内外にこの都市イメージを発信していくことができると考えております。

「教育」では、日本一の教育都市づくりに向けた土曜チャレンジスクールの全校での実施、また個性ある市立高校改革、また子ども総合センター

の整備を進めてまいります。

また、「健康・スポーツ」では、健康で長生きができる都市をつくるために、医療分野への市内企業の進出、また企業誘致を実現していく「さいたま医療ものづくり都市構想」、またスポーツのビッグイベント誘致によりまず経済効果等を地域の活性化に生かしていく「さいたまスポーツコミッション」を活用した事業なども行ってまいります。

また、「環境」では、環境先進都市づくりのために、見沼田圃に代表される自然緑地空間の保全、また「E-KIZUNA Project」や「次世代自動車・スマートエネルギー特区」による環境先進技術の集積、地産地消型のエネルギーコミュニティの創造など、国はもとより本市の成長戦略にもつなげてまいりたいと考えております。

大宮駅周辺地域戦略ビジョンに基づく駅東口周辺のまちづくりの進展や大宮区役所の建て替えに合わせた公共施設の再編、岩槻駅、指扇駅の橋上化工事を進めてまいります。

また、3月には湘南新宿ラインの停車と東西連絡通路によりまして駅の東西が一体となる浦和駅高架化事業が完成して、都心へのアクセスが飛躍的に向上するとともに、駅周辺が一体的に整備され、活性化が図られていくものと期待をしています。

また、1月4日にオープンした南区の拠点となります複合公共施設サウスピアや、またアートストリートなど、さいたま芸術劇場を中心としたまちづくりも進めてまいります。このように、東日本の玄関口やハブ、中心都市としてのまちづくりを進めております。

日本一しあわせを実感できるさいたま市の実現に向けて、着実な一歩を踏み出し始めていると考えております。

また、ことしの12月には、本市の市民栄誉賞を受賞されております若田光一さんが4回目の宇宙へ行くことになっております。6か月の滞在期間の中で日本人初のコマンダー、船長に就任することが決まっております。若田さんのように世界、そして宇宙へさいたま市が大きく輝きを増す1年にしていきたいと考えております。

以上、簡単ではありますが、平成25年の年頭に当たりまして私の考え方を申し上げましたが、さいたま市が選ばれる都市に、そして希望と絆に

あふれたまちになるよう、市民の皆様とともに全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のなご一層のご支援、ご協力をお願いをしたいと思います。

以上です。

○ 埼玉新聞      ありがとうございます。今の市長のご発言について何か質問がある方はよろしくお願ひします。よろしいでしょうか。

それでは、幹事社として3点ほど質問させていただきます。よろしくお願ひします。

**幹事社質問：**

- ① 新年度の展望と抱負について
- ② 新年度予算規模と市長査定の感想について
- ③ 一連の不適正な事務処理問題の中で入札制度の変更などをする予定は？

まず、ちょっと1問目は、先ほどの挨拶とかぶってしまうんですけども、新年の展望と抱負をひとつよろしくお願ひします。

それから、新年度予算に関して、一般会計の規模がどの程度になりそうか、また市長査定、既に幾つかやられていると思うんですけども、その感想がありましたらよろしくお願ひします。

それともう一点、昨年ありました不適正な事務処理問題の中で、契約を小口化していたということが問題になったと思うんですが、入札制度の変更などをされるご予定がありましたらよろしくお願ひします。

○ 市長      それでは、幹事社質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、1問目の新年の展望と抱負をということでございますが、最初の冒頭のご挨拶とも多少かぶる分がございすけれども、ことしの新年の展望についてでございますが、先ほど申し上げましたとおり、ことしは巳年ということで、種をまいてきたことが実る年とも一般的に言われておりますけれども、ちょうどそういったこれまでさいたま市が種をまいて取り組んできたことなどが、芽が出てき、そして大きく育ち、実を結んだり、あるいは花を開く、そういった年にしたいと考えております。

特にですね、市長就任以来、さいたま市が絆の溢れるまちにしていこう、

また市民の皆様がさいたま市に住んで誇りに思えるまちにしていこうということで、例えば全国ではじめてのスポーツコミッションというものを設立させていただいたり、次世代自動車・スマートエネルギー特区ということで、国の総合特区として指定をいただき、国の成長戦略の一翼をこのさいたま市が担っていこうということで取り組ませていただいたり、土曜チャレンジスクールを全国で配置をしようというようなことなど、さまざまな種をまいてまいりました。

さいたま市は、まだまだ成長の余地がある、ポテンシャルが大変高い都市であると考えております。

しかし、昨年ぐらいからいわゆる団塊の世代の方々が65歳になりました。今後ですね、さいたま市の人口構成を見ますと、団塊の世代、それから団塊のジュニアが大きな山を形成しておりまして、これから急激に高齢化が進んでくるということが想定されております。

また、公共施設の老朽化の問題などもございます。そうした大きな課題に対応していくために、やはりこれからの数年間が大変重要な時期を迎えると私自身も考えているところでありまして、そのためには、先ほども言いましたとおり、やはり選ばれる都市にしていくことが必要であると考えております。市民からも、あるいは企業からもさいたま市に進出をしたい、あるいはさいたま市に住みたいというふうに思われる、そんな都市になれるように取り組んでいきたいと考えておりますし、そのために短期的な視点だけではなくて、中長期的な展望というものをしっかり持ちながら、さいたま市が発展するように取り組んでいくことが必要だと考えておりますので、そういった取り組みなども行ってまいりたいと考えております。

次にですね、新年度予算の規模、そして市長査定の感想ということでもありますけれども、平成25年度予算につきましては、現在予算編成を行っているところでございますが、歳出におきましては生活保護などの社会保障費等の増加が見込まれておりますが、歳入におきましては、根幹をなす市税収入の微増が見込まれておりますこと、さらに計画的に進められている事業の進捗状況から、一般会計の予算規模としては、平成24年度予算と比較をして若干、約3%ちょっとぐらいだろうと思っておりますが、程度の拡大が見込まれております。まだ最中でございますので、正確な数字は申し

上げられませんけども、その程度かなと考えております。

また、市長査定の感想としましては、先ほども申し上げましたように、歳入の根幹をなす市税収入の微増が見込まれるものの、やはり生活保護など社会保障費等の増加が見込まれて、収支不足が厳しい状況の中で、やはり徹底した行財政改革を進めて、生産性の高い都市経営というものを目指して、限られた財源を効率的、また効果的に配分することによって、これまでの取り組み、また成果等を踏まえた事業を推進していくことはもとより、平成25年度が最終年度となります総合振興計画(新実施計画)(会見後追加)の達成というものを目指してしっかりやっていくことが必要であると考えています。

特に来年度予算については、「防災、環境・エネルギー対策」、それから「高齢者支援、子育て支援、教育の充実」、また「健康増進、スポーツ振興」、また「地域経済の活性化」といった重点分野への予算の優先配分を行って、これからの100年に向かって活力あるまちづくりを推進する予算編成を行っていきたいと考えております。

次に、幹事社の3番目の質問でございます。不適正な事務処理の中での今後の対応策はということでございますけれども、今回の一連の不適正な事務処理問題の調査結果の検証と再発防止策の提言を受けるべく、昨年「さいたま市不適正事務処理に関する第三者委員会」というものを設置して、10月30日から11月27日までの間に5回の会議を開催し、その報告書が12月19日に提出されました。

第三者委員会からは、6つの提言、33の提案をいただいております。その中ですぐに対応できることについては、それぞれの所管に指示をして対応するようにしております。

また、年度末が近づいてきておりまして、今年度の予算執行について、不適正な繰り越しを行わないように徹底をしてまいりたいと考えております。

また、市議会の事務処理等適正化調査特別委員会では、昨年12月20日に地方自治法第100条に基づきます調査結果の中間報告を行って、引き続き改善策を提言すべく、調査を進めていくこととなっております。

入札制度の改正、またシステム改正等、予算措置を必要とするものにつ

きましては、今後事務処理等適正化調査特別委員会から提言をいただきまず改善策と、また第三者委員会からの提言を踏まえまして、実効性、費用対効果、事務の効率性等も総合的に勘案して、再発防止策を講じていきたいと考えております。

小口化につきましては、執行の段階で適切にチェックができる、そういった体制を行っていかうということで今検討を進めているところでございます。

以上でございます。

○ 埼玉新聞

ありがとうございます。

今のことについて質問のある社はよろしく申し上げます。

よろしいでしょうか。それでは、ほかに何か質問のある方はお願いいたします。

その他：「ツールドフランス誘致に向けた現在の進捗状況と市長の期待について」

○ テレビ埼玉

よろしいでしょうか。テレビ埼玉ですけれども、さいたま市のほうでツールドフランスの誘致に向けて協議を進めているとのことなんですけれども、現在の進捗状況と、市長ご自身の、もし誘致がなったとすれば、その期待を一言お願いできますでしょうか。

○ 市長

現在の進捗状況ということでございますけれども、ツールドフランスにつきましては世界で最大のサイクリングイベントであります。

このツールドフランスの冠を付した国際的な自転車競技大会を開催していかうということで今取り組みを行っております、特にスポーツ振興、それから地域経済の活性化ということを目的として、誘致活動を行っているところであります。

その中で、現時点ではですね、まずそのツールドフランスを運営しておりますASOという会社がございますけれども、この会社と協議、調整を進めているところであります。

その中で、昨年12月にこのASOの担当者が来日をされまして、想定されるコースの下見と契約についての打ち合わせなどを行わせていただいたところでございまして、またあわせて実施をするに当たりましては警察との協議、あるいは市議会、あるいは埼玉県、自転車連盟など、関係のさ

まざまな機関と開催への説明と協力をお願い等、開始をしているところと  
ございまして、今そういった関係機関と調整、協議を進めているところと  
いうのが現在の進捗状況でございます。

○テレビ埼玉 開催に向けた、その期待を一言お願いできますか。

○市長 そういう意味では、まず1つはやはりさいたま市、あるいは埼玉県全体  
が自転車の保有台数が全国一とも言われておりますけれども、非常に自転  
車に乗る方が多い都市でもございます。

そういったこともございますし、さいたま市として今、先ほどもお話し  
しておりましたスポーツを使ったまちづくり、スポーツで日本一笑顔あふ  
れるまちにというのをテーマにまちづくりをしておりますので、そういっ  
たもののシンボリックなイベントを実施していきたいということで昨年来か  
らずずっと考え、また誘致活動なども行わせていただきました。

ツールドフランスという冠がついた大会は、行われれば世界初というこ  
ともになりますし、ちょうど今年はそのツールドフランスが100回目を  
記念する大会が行われるということにもなっておりますので、そういう意  
味では今後スポーツの振興、特に自転車の利用拡大、あるいはその安全運  
転なども含めてですね、そういったものを図るにはまさに絶好の機会であ  
ると、そして先ほども言いましたけれども、さいたま市が世界へ、あるい  
は全国へ都市イメージを発信する上においても大変重要な、また大きな役  
割を果たすイベントだと考えておりますので、ぜひともそれを実現させたい  
と思っておりますし、多くの方々の夢でもございますので、その夢の実  
現に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

○埼玉新聞 ほかにいかがでしょうか。

その他：「国会議員と首長との兼職について」

○時事通信 時事通信と申します。お願いします。

国会議員と地方自治体の首長との兼職について伺います。日本維新の会  
がですね、参議院議員と地方自治体の首長との兼職を可能にする法案の提  
出を表明していますけれども、この動きに対して市長はどうお考えかとい  
うことと、そもそもその自治体の首長と、それから国会議員、衆議院とか  
も含めてですね、兼職というものは可能なかどうか、市長の受けとめを



お聞かせください。

- 市長 首長と国会議員の兼職については、政令指定都市市長会議などでも何度か議論をさせていただきました。その中で、やはり首長という立場で国のさまざまな政治に対して意見を申し上げていく、あるいはそういった現場を持った地方の声を国に伝えていくことの大切さということは必要であり、大変重要なことだという認識を私自身もしておりますし、その兼職ができるという規定ができることについては、どちらかといえば賛成のほうであると考えております。

ただ、もう一方で、じゃ現実としてそれが一緒にできるかどうかということになると、私自身のことだけで言えばですね、政令指定都市の今首長という立場をしております、なかなか現実にはその2つを両立させることの難しさも一方で痛感をしているということもございます。

ですので、首長と言ってももちろん知事、あるいは市町村長、それぞれいろんな都市がございますので、両立ができるという方であれば、それはそういった取り組みをされてもいいのではないかと考えております。

ほかにはございますか。

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。お願いします。

その他：「新年名刺交換会で触れた「日本一の桜並木づくり」の詳細について」

市長は新年名刺交換会の挨拶の中で、見沼田圃に日本一の桜並木づくりを推進するということをおっしゃっていましたが、ちょっとより、もう少し詳しくお聞かせください。

- 市長 現時点でも見沼代用水の西べり、東べりにはかなりの桜並木が整備されております。私自身は、いつもその桜並木を見ておりますと、もちろんそこでお花見をされている方もいらっしゃいますし、多くの方が来ていただいている実態もございますが、それをさらに広げて、この見沼田圃は私たちにとっても首都圏に残された有数の緑地空間でもあり、さいたま市にとってもシンボリックな場所であると考えておりますので、そこに日本一の桜並木をつくることでさいたま市民の心を一つにすることもできるし、さいたま市の、いわゆる観光名所をつくることにもつながっていくと考えています。

できれば私自身は、これは行政だけが整備をしていくということではなくて、やはり何年かの、5年とか10年とかという計画をつくってですね、市民の皆さんやいろんな団体の皆さん、あるいは企業などにもご協力をいただいて、みんなで力を合わせて桜並木を整備して、みんなで作った桜並木にしていきたい。

これまでもいろんな団体の皆さんがご寄附をいただいて桜の植樹などを行っておりますので、そういった市民の力や行政と市民との連帯といえますか、絆のシンボルにもしていきたいと思っています。

○ 埼玉新聞 済みません、日本一ということの意味なんですけれども、規模や長さとか見ばえとか、いろいろあると思いますけど、どういう意味で日本一とおっしゃって……

○ 市長 そうですね、まだ具体的な調査とか計画づくりについてはですね、今後実施をしていきたいと思っておりますけれども、ですので、単純にぐるっと西ベリと東ベリをくっつけた形で日本一になれるのかどうか、もう少しちょっと広げていかなければいけないという部分もあるかもしれません。その辺については、今後ちょっと調査をして、精査をしながら具体的な目標を明確にしていきたいと。

そしてその上である程度の期間を持った目標をつくって、みんなで一緒に取り組んでいくという形にしていきたいと思っております。

私自身は、長さというのを一つイメージしております。

#### その他：「次の期に向けての市長の思いについて」

○ 読売新聞 読売新聞と申します。

今年の5月に市長の任期を迎えるに当たりましてお伺いしたいんですけども、ご挨拶の中では、種をまいて実を結ぶ年にしたいと、選ばれる年にしたいと、中長期の視点が必要という、ご挨拶の中に言葉がありましたけれども、次の期に向けて現時点での思いなりがあればお伺いしたいと思います。現時点でまだ決まっていないのであれば、こういった時点でどういうことで判断するのもお聞かせいただければと思います。

○ 市長 まず、現時点ではまだ判断には至っておりません。しかし、任期が5月26日までと定められておりますので、余り遅くないタイミングで自分な

りの判断、あるいは決断というものをしなくてはいけないのではないかと  
は考えております。

- 埼玉新聞      ほかにいかがでしょうか。  
                         よろしいでしょうか。それでは、こちらからの質問を終わらせていた  
                         きます。ありがとうございました。
- 進 行      以上をもちまして、市長年頭記者会見を終了させていただきます。  
                         なお、次回の開催につきましては1月16日水曜日、13時30分から予  
                         定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。お疲れさまでござ  
                         いました。

午前11時28分閉会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理  
したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正等された文言等につ  
いては（ ）あるいは「会見後訂正」とし、下線を付しています。